

# 逼迫する町財政

## 新年度予算総額

### 九億四千八百二十万円の

昭和五十年度の新予算を定める三月定例議会は、去る三月十二日に招集され、会期を三日間とし、会議は十二日・十四日の二日間にわたって開催されました。

本議会に提出された議案は、新年度の一般会計、特別会計予算案四件四十九年度各会計予算案三件、そのほか条例制定・改正案・人事に関する案件などで、審議の結果、各議案ともに原案どおり可決されました。なおこの議会で伊東町長は次のような新年度予算の編成方針を述べておられます。

### 物価高騰がもたらす

### 抑制形の予算編成

当町も前年度における人件費の大巾な引上げ物価高騰による物件費・建設費の値上り等の影響を受け、歳出の中で占める人件費、經常費等の割合が非常に高くなりま

した。反面五十年度の経済見通しもゆるやかな回復基調をたどるものとはいいながら、最近の厳しい社会経済情勢の推移から言って、

急激な回復は望めないものと思われ、町税・交付税等の収入にあまり大きな期待をかけることは、当初予算編成の段階では、無理といえます。従って五十年度

の予算はこの様な情勢を反映して

たしました。道路網の整備として舗装事業に木戸台外四カ所約二千五百メートル事業費二千万円を計上いたしました。学校建設事業については、横芝小学校防音校舎増築四教室四四〇平方メートルを四千八百二十三万九千円、上堺小学校校舎増築に五教室五二〇平方メートル、五千七百三十一万八千円をそれぞれ計上いたしました。

国保会計については医療費の大巾な値上りと老人医療費の急増、高額療養費の支給等に伴って保険給付費は四十九年度より更に大巾に増加することになり又、一方歳入面では国保税に依存する面が非

## 補正予算など 議決

### ▽昭和五十年度予算の議定

一般会計予算九億四、八二〇万円、国民健康保険特別会計予算二億九千万円、有線放送電話特別会計予算二、三三四万円、国民保養

センター特別会計予算八六三万円がそれぞれ定められました。なお、予算の内容分析や財政状況については次号で報告いたします。

▽特別職職員で非常勤のもの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正

常に高くなり、放任すれば八割の増税もしなければならぬ状況でありました。然し一般会計より一千万円、基金より五〇〇万円繰入れることにより、税の伸びを五十六パーセント程度に抑え郡平均以下となるよう編成し、予算総額は歳入歳出ともに二億九千四百万円でありました。

有線会計については、最近公社電話のいちじるしい普及によりわずかつつであります。加入者は減少しており、又一方では人件費、物件費等の高騰によつて現行の使用料等では賄い切れないのが現状であります。しかし本年度は使用料を現行のまま据え置き、深夜業

酬及び費用弁償に関する条例の一部改正

特別職の非常勤職員の報酬等を 四月一日から引き上げるもので、 改訂額は次のとおりです。	
選管委員長	月額一五、〇〇〇円
委員	一、二、八〇〇円
教育委員長	一、五、〇〇〇円
委員	一、二、八〇〇円
農業委員長	一、五、〇〇〇円
委員	一、二、八〇〇円
監査委員(学識)	一五、〇〇〇円
委員	一、二、八〇〇円
(議会)	一、二、八〇〇円
投票管理者	月額三、八〇〇円
開票管理者	〃
選挙長	〃
投票立合人	〃 三、〇〇〇円

務を廃止することにより放送員を二名減員して経費の節減を図り、なお不足分については一般会計と基金からの繰入金によつて補填する方向で編成し、予算総額は歳入歳出ともに二千三百三十四万円であります。

国民保養センター会計についても人件費の高騰により経営的には収支のバランスが取れず一般会計よりの補填は避けられないものと考

えられます。極力施設の利用を促進し、使用料等の増収を図ることを最大の努力目標として編成されたもので予算総額は歳入歳出ともにそれぞれ八百六十三万円であります。

開票立合人	月額三、〇〇〇円
選挙立合人	〃
町医	月額五一、〇〇〇円
校医	〃
歯科校医	〃
学校薬剤師	〃 一〇、八〇〇円
地区総務員	〃
年額基本報酬	七、五〇〇円
戸数一戸につき	九二五円
納税組合長	〃
年額基本報酬	七、五〇〇円
納税者一人につき	四五〇円
その他の附属機関の委員等	〃
日額三、〇〇〇円	〃

▽消防団条例の一部改正  
消防団員の報酬を四月一日から  
次頁に続く